

### ●参考文献・教材

授業中に指示する。

科目番号 M3701	授業科目名: <b>表現文化学研究 I</b>	担当教員名:	単位数
開講期 前水 3	英文名: Higher Studies in Culture and Representation I	荒木 映子 非常勤講師	2 単位

### ●科目的主題

ジェンダー／セクシュアリティの視点から、文学、芸術、戦争を読み解く。

### ●到達目標

ジェンダー／セクシュアリティについての研究の動向を学び、この視点を導入することによって、対象が違った見え方をしないかを考える。受講生が興味を持つトピックについて、この方面からの分析・考察ができるようになることを目標とする。

### ●授業内容・授業計画

以下の内容に沿って講義をし、受講生には議論と報告を求める。

- 第1回 ジェンダー／セクシュアリティ研究入門
- 第2回 新しいジェンダー／セクシュアリティ研究の動向
- 第3回 文学におけるジェンダー／セクシュアリティ(1) ジョン・ラスキンと J. S. ミル
- 第4回 文学におけるジェンダー／セクシュアリティ(2) ヴァージニア・ウルフとモダニスト作家
- 第5回 文学におけるジェンダー／セクシュアリティ(3) フェミニズムからクィア理論へ至る読解
- 第6回 文学におけるジェンダー／セクシュアリティ(まとめ)
- 第7回 芸術におけるジェンダー／セクシュアリティ(1) フェミニスト映像論
- 第8回 芸術におけるジェンダー／セクシュアリティ(2) フェミニスト美術史家
- 第9回 芸術におけるジェンダー／セクシュアリティ(3) ニュー・アート・ヒストリー
- 第10回 芸術におけるジェンダー／セクシュアリティ(まとめ)
- 第11回 戦争におけるジェンダー／セクシュアリティ(1) 男同士の絆
- 第12回 戦争におけるジェンダー／セクシュアリティ(2) 摺らぐフェミニニティとマスキュリニティ
- 第13回 戦争におけるジェンダー／セクシュアリティ(3) 記憶の表象のジェンダー化
- 第14回 戦争におけるジェンダー／セクシュアリティ(まとめ)
- 第15回 まとめ

### ●評価方法

授業での発表とレポート

### ●受講生へのコメント

いろいろな興味を持つ受講生に対応できるよう、できるだけ対象を広くとり、視点は定めて、今後の研究の役に立つようにしました。十分文献を読んだ上で、積極的な参加を望みます。小さな研究対象に凝り固まってしまったわないように。

### ●参考文献・教材

E. ショーウォーター『新フェミニズム批評』(岩波書店)

イヴ・セジウィック『男同士の絆』(名古屋大学出版局)

ハル・フォスター『視覚論』(平凡社)

グリゼルダ・ポッロク『視線と差異』(新水社)

その他英語文献含め、追って指示。

科目番号 M3703	授業科目名: <b>表現文化学研究 II</b>	担当教員名:	単位数
開講期 前火 3	英文名: Higher Studies in Culture and Representation II	小田中 章浩 教授	2 単位

### ●科目的主題

「第一次世界大戦とその表象」

### ●到達目標

与えられた研究テーマに関するリサーチならびに報告、ディスカッションを行うことにより、表現文化学的な研究の手法を身につけること。

### ●授業内容・授業計画

第一次世界大戦は、文明は未来に向かって発展し続けるという 19 世紀西洋社会の楽観主義的幻想を打ち砕い

た決定的な転機となった。この授業は、Paul Fussel, *The Great War and Modern Memory* (Oxford University Press, 1975), Eric J. Leed, *No Man's Land* (Cambridge University Press, 1979)、モードリス・エクスタインズ『春の祭典第一次世界大戦とモダン・エイジの誕生』(金利光訳、TBS ブリタニカ、1991)、桜井哲夫『戦争の世紀 第一次世界大戦と精神の危機』(平凡社新書、1999)といったこの分野に関する基本的な文献を講読することによって、この戦争が西洋の文化にもたらした大変動について理解することを目的とする。

#### 第1回 授業ガイダンス

- 第2回 文献講読ならびにディスカッション(1)
- 第3回 文献講読ならびにディスカッション(2)
- 第4回 文献講読ならびにディスカッション(3)
- 第5回 文献講読ならびにディスカッション(4)
- 第6回 文献講読ならびにディスカッション(5)
- 第7回 文献講読ならびにディスカッション(6)
- 第8回 文献講読ならびにディスカッション(7)
- 第9回 文献講読ならびにディスカッション(8)
- 第10回 文献講読ならびにディスカッション(9)
- 第11回 文献講読ならびにディスカッション(10)
- 第12回 文献講読ならびにディスカッション(11)
- 第13回 文献講読ならびにディスカッション(12)
- 第14回 文献講読ならびにディスカッション(13)
- 第15回 文献講読ならびにディスカッション(14)

#### ●評価方法

受講生は、毎回指定された文献に関する報告を行うだけでなく、必要に応じて関連した事項についてリサーチを行い、報告することが求められる。評価は、毎回の授業において、各自が与えられた課題を確実に達成したかどうか、さらに学期末に提出するレポートによって行う。

#### ●受講生へのコメント

#### ●参考文献・教材

上記の文献は、英語文献については必要箇所をプリントで配布する。

科目番号	授業科目名:	担当教員名:	単位数
M3704	表現文化学研究演習 2		
開講期 後火 3	英文名: Higher Studies and Seminar in Culture and Representation 2	小田中 章浩 教授	2 単位

#### ●科目的主題

「第一次世界大戦がもたらした文化の危機とその表象」

#### ●到達目標

受講生が、自らの専門分野に応じて、与えられた問題系を自らの問題へと再設定し、研究を展開する能力を身につけること。

#### ●授業内容・授業計画

前期(表現文化学研究 2)に引き続き、第一次大戦が西洋文明にもたらした文化的な危機の様相について、文学、絵画、舞台芸術、映画などの表象文化を取り上げて検討する。

#### 第1回 授業ガイダンス

- 第2回 受講者による報告とディスカッション(1)
- 第3回 受講者による報告とディスカッション(2)
- 第4回 受講者による報告とディスカッション(3)
- 第5回 受講者による報告とディスカッション(4)
- 第6回 受講者による報告とディスカッション(5)
- 第7回 受講者による報告とディスカッション(6)
- 第8回 受講者による報告とディスカッション(7)
- 第9回 受講者による報告とディスカッション(8)
- 第10回 受講者による報告とディスカッション(9)
- 第11回 受講者による報告とディスカッション(10)
- 第12回 受講者による報告とディスカッション(11)
- 第13回 受講者による報告とディスカッション(12)

**第14回** 受講者による報告とディスカッション(13)

**第15回** 受講者による報告とディスカッション(14)

●評価方法

評価は授業におけるリサーチの達成度、発表の成果に基づいて行う。

●受講生へのコメント

改めて指摘するまでもなく、本演習は受講者の自主的な取り組みに基づいて展開されるものであり、一方向的に何かが「与えられる」ものではない。

●参考文献・教材

必要に応じてプリントを配布し、リサーチすべき資料を提示する。

科目番号	授業科目名:	担当教員名:	単位数
M3705	表現文化学研究Ⅲ		
開講期 後火 4	英文名: Higher Studies in Culture and Representation III	野末 紀之 準教授	2 単位

●科目的主題

笑いとユーモアにかんする理論的考察を行なった論文を読み、理論が現代の笑いの分析にどれほど有効か、考察を加える。

●到達目標

論文を一本読み、その視点の有効性や論述の問題点を指摘する。有効であれば、各自選んだテキストの分析に活用する。

●授業内容・授業計画

「笑い」を現代的見地から考察した論文を精読し、その問題点と有効性を議論する。受講生には、「笑い」を喚起する作品を各自の関心から選び、分析してもらう(一回)。

- 第1回 テキスト 175 ページ～179 ページ①  
第2回 テキスト 175 ページ～179 ページ②  
第3回 テキスト 175 ページ～179 ページ③  
第4回 テキスト 180 ページ～184 ページ① テキスト分析の発表①  
第5回 テキスト 180 ページ～184 ページ②  
第6回 テキスト 180 ページ～184 ページ③  
第7回 テキスト 185 ページ～189 ページ①  
第8回 テキスト 185 ページ～189 ページ② テキスト分析の発表②  
第9回 テキスト 185 ページ～189 ページ③  
第10回 テキスト 190 ページ～194 ページ①  
第11回 テキスト 190 ページ～194 ページ②  
第12回 テキスト 190 ページ～194 ページ③ テキスト分析の発表③  
第13回 テキスト 195 ページ～199 ページ①  
第14回 テキスト 195 ページ～199 ページ②  
第15回 レポート相談日

●評価方法

出席、発表、レポートを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

十分な予習が必要。また、言及される作品にできるだけ目を通してほしい。

●参考文献・教材

教材は、Michael Billig 編集の *Laughter and Ridicule* (2005) の”Laughter and Unlaughter”をコピーして配布する。

科目番号	授業科目名:	担当教員名:	単位数
M3706	表現文化学研究演習 3		
開講期 前火 4	英文名: Higher Studies and Seminar in Culture and Representation 3	野末 紀之 準教授	2 単位

●科目的主題

「笑い」にかんして現代的視点から書かれた論文を精読し議論しつつ、さまざまなメディアにあふれている「笑い」を分析する視点を養う。

## ●到達目標

論文を一本読み、その視点の有効性や議論の問題点を指摘とともに、みずから選んだテキストの分析に活用する。

## ●授業内容・授業計画

「笑い」にかんする現代の研究者の論文を読みすすめながら、隨時、受講生による発表を織り交ぜる。

- |      |                                  |
|------|----------------------------------|
| 第1回  | テキスト 200 ページ～208 ページ①            |
| 第2回  | テキスト 200 ページ～208 ページ②            |
| 第3回  | テキスト 200 ページ～208 ページ③            |
| 第4回  | テキスト 200 ページ～208 ページ④ テキスト分析の発表① |
| 第5回  | テキスト 209 ページ～217 ページ①            |
| 第6回  | テキスト 209 ページ～217 ページ②            |
| 第7回  | テキスト 209 ページ～217 ページ③            |
| 第8回  | テキスト 209 ページ～217 ページ④ テキスト分析の発表② |
| 第9回  | テキスト 218 ページ～225 ページ①            |
| 第10回 | テキスト 218 ページ～225 ページ②            |
| 第11回 | テキスト 218 ページ～226 ページ③            |
| 第12回 | テキスト 227 ページ～235 ページ① テキスト分析の発表③ |
| 第13回 | テキスト 227 ページ～235 ページ②            |
| 第14回 | テキスト 227 ページ～235 ページ③            |
| 第15回 | レポート相談日                          |

## ●評価方法

出席、発表、レポートを総合的に評価する。

## ●受講生へのコメント

よくになし。

## ●参考文献・教材

教材は、John Morreall 編集の *The Philosophy of Laughter and Humor* (1987) のなかの ”Embarrassment, Humour, and the Social Order” をコピーして配布する。参考文献は授業中に適宜指示する。

科目番号	授業科目名:	担当教員名:	単位数
M3707	表現文化学研究IV		
開講期 後木 4	英文名: Higher Studies in Culture and Representation IV	三上 雅子 教授	2 単位

## ●科目的主題

現代においては経済の面のみならず、文化・芸術においても、ますますグローバリゼーションが進み、芸術作品は言語・国境・文化圏を越えて享受・消費され、アーティストも国境を越えて制作活動の場を拡げていっている。このグローバリゼーションという現象は、個々のアーティストのアイデンティティにどのような影響を与えていくのか、また芸術作品の受容・消費・評価にどのように作用するのかを考察する。

## ●到達目標

特定の芸術作品・芸術家の活動を、社会的・歴史的観点から複合的に分析・研究する方法論の習得を目指す。

## ●授業内容・授業計画

本授業においては、基本的にはドイツ語圏の映画監督を中心に、その国境を越えつつある活動の軌跡を、ハリウッド映画との関係において講じる。その際、ドイツのみではなく、日本の映画人等をも広く考察の対象とする。日本語・英語の文献を使用するので、ドイツ語の知識は必要とはしない。

- |      |                                   |
|------|-----------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション。                        |
| 第2回  | 映画の歴史の概説的紹介。                      |
| 第3回  | 第二次世界大戦前のドイツ映画。DVD鑑賞。             |
| 第4回  | ドイツの崩壊、ドイツ映画の崩壊、イタリア映画の場合。        |
| 第5回  | ドイツ映画の復興、国際的評価の再獲得—政治的認知。         |
| 第6回  | ニュージャーマンシネマ、DVD鑑賞。                |
| 第7回  | 大作主義に向かうドイツ映画、ハリウッドとの新たな関係、DVD鑑賞。 |
| 第8回  | ドイツのコメディー女性映画監督(1)—ハリウッドとの関係。     |
| 第9回  | 女性映画監督(2)                         |
| 第10回 | 映画祭における評価。                        |
| 第11回 | 国境を超える映画人。                        |

- 第12回** 映画によって作られる国家イメージ。  
**第13回** 日本映画の場合(1)  
**第14回** 日本映画の場合(2)  
**第15回** 全体総括、レポート作成にあたっての注意。

●評価方法

レポートによる。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

科目番号	授業科目名:	担当教員名:	単位数
M3708	表現文化学研究演習4		
開講期 前木4	英文名: Higher Studies and Seminar in Culture and Representation 4	三上 雅子 教授	2単位

●科目的主題

本授業では参加者による事例研究に基づいた発表を中心とする。

●到達目標

表現文化学研究に必要な方法論を確認するとともに、学会発表や論文執筆にあたって必要とされるスキルについても、学んでいく。

●授業内容・授業計画

20世紀の諸芸術ジャンルに関して、受講生に個別発表を行ってもらう。

- 第1回** イントロダクション、アイスブレーキング。  
**第2回** 受講生各自の発表テーマについて確認、参考文献指示。  
**第3回** 第1回発表ならびに討論。  
**第4回** 第2回発表ならびに討論。  
**第5回** 第3回発表ならびに討論。  
**第6回** 中間総括(1回目)。  
**第7回** 第4回発表ならびに討論。  
**第8回** 第5回発表ならびに討論。  
**第9回** 第6回発表ならびに討論。  
**第10回** 小レポート提出にあたっての注意、討論。  
**第11回** 中間総括(2回目)  
**第12回** 小レポートに関して総括。  
**第13回** 最終発表(1)  
**第14回** 最終発表(1)  
**第15回** 総合総括

●評価方法

発表 35% レポート 65%

●受講生へのコメント

発表に際しては、依拠すべき論文等について充分調べておくこと。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

科目番号	授業科目名:	担当教員名:	単位数
M3709	表現文化学研究V		
開講期 前水2	英文名: Higher Studies in Culture and Representation V	海老根 剛 准教授	2単位

●科目的主題

今年度は、代表的な理論的著作を参照しながら映像と身体(および身体知覚)との関係を考察する。適宜、映像作品の上映や分析を織り交ぜる予定。

●到達目標

映像と身体との関係性を考察する理論的視点を学び、各自の研究テーマに活かしていくことを目指す。

### ●授業内容・授業計画

英語文献と日本語文献をとりまして読んで行く予定。適宜、作品の上映と分析を行う。

第1回	ガイドンス
第2回	文献講読
第3回	文献講読
第4回	文献講読
第5回	作品分析
第6回	文献講読
第7回	文献講読
第8回	文献講読
第9回	文献講読
第10回	作品分析
第11回	文献講読
第12回	文献講読
第13回	文献講読
第14回	作品分析
第15回	まとめ

### ●評価方法

発表とレポートによって評価する。

### ●受講生へのコメント

専門分野を問わず映像文化研究に関心のある学生の受講を歓迎します。

各自、自分の研究テーマと関連づけながら文献を読み、理論的視野を広げる機会として授業を活用してください。

### ●参考文献・教材

プリントを使用。

科目番号	授業科目名:	担当教員名:	単位数
M3710	表現文化学研究演習 5		
開講期 後水 3	英文名: Higher Studies and Seminar in Culture and Representation 5	海老根 剛 准教授	2 単位

### ●科目的主題

現在、アートやサブカルチャーの違いを問わず、作者(創作物の帰属先)／読者(創作物の宛先)に代わってコミュニティ(帰属先かつ宛先)が、創作活動をめぐる理論的研究の焦点になる傾向が観察される。この演習では、芸術をはじめとする(しかし芸術のみに限定されない)創作活動とコミュニティの関係を、歴史的・理論的視点から考察し、議論する。

### ●到達目標

歴史的な視点をも導入しながら、現代の創作活動を考察する生産的な視点をさぐる。

### ●授業内容・授業計画

文献講読と具体的な創作物の考察を交互に行っていきたい。

第1回	ガイドンス
第2回	文献講読
第3回	文献講読
第4回	文献講読
第5回	作品の考察
第6回	文献講読
第7回	文献講読
第8回	文献講読
第9回	作品の考察
第10回	文献講読
第11回	文献講読
第12回	文献講読
第13回	文献講読
第14回	作品の考察

## 第15回 まとめ

### ●評価方法

発表とレポートによる。

### ●受講生へのコメント

現代の創作活動に関心のある院生ならば専門分野を問わず受講を歓迎する。特に最近の創作活動については、受講者からの問題提起を期待する。

### ●参考文献・教材

適宜、指示する。

科目番号	授業科目名:	担当教員名:	単位数
M3711	表現文化学研究VI		
開講期 後木2	英文名: Higher Studies in Culture and Representation VI	高島 葉子 準教授	2単位

### ●科目的主題

『指輪物語』の原作と映画化作品におけるヒーロー像を考察する。

### ●到達目標

原作と映画化作品の比較考察の方法と可能性を学ぶ。

### ●授業内容・授業計画

『指輪物語』の原作と映画のヒーロー像に関して論じた文献を読む。文献の各章の論点を担当者に報告してもいい、その内容について全員で討論することによって理解を深める。学期末には、各自問題設定をしてレポートをまとめてもらう。

第1回 オリエンテーション

第2回 Ch.1 Literary and Cinematic Heroes の講読

第3回 Ch.1 Literary and Cinematic Heroes の講読

第4回 Ch.1 について討論

第5回 Ch.2 Merry as a Knowledgeable Hero の講読

第6回 Ch.2 Merry as a Knowledgeable Hero の講読

第7回 Ch.2 についての討論

第8回 Ch.3 Pippin as Impulsive, Youthful Hero の講読

第9回 Ch.3 Pippin as Impulsive, Youthful Hero の講読

第10回 Ch.3 についての討論

第11回 Ch.4 Eowyn as Action Hero の講読

第12回 Ch.4 Eowyn as Action Hero の講読

第13回 Ch.4 についての討論

第14回 Ch.5 Galadriel and Arwen as Inspirational Heroes の講読

第15回 Ch.5 についての討論

### ●評価方法

出席状況、発表、討議への参加など、レポートに基づいて評価する。

### ●受講生へのコメント

討論での積極的な発言を求める。『指輪物語』の原作と映画にあらかじめ目を通しておくことが望ましい。

### ●参考文献・教材

Lynnette R. Porter, *Unsong Heroes of the Lord of the Rings: From the Page to the Screen*, 2005

科目番号	授業科目名:	担当教員名:	単位数
M3712	表現文化学特殊研究		
開講期 前集中	英文名:	河本 真理 非常勤講師	2単位

### ●科目的主題

西洋近現代美術(主に20世紀美術)の諸相を、年代順に追うのではなく、鍵となる概念(抽象、コラージュ、綜合芸術作品、偶然、複製とアウラ...)を通して浮かび上がらせます。

### ●到達目標

西洋近現代美術の基礎的な概念と批評言語をおさえ、その歴史的文脈(コンテクスト)を理解します。

### ●授業内容・授業計画

基本的には、西洋近現代美術についてテーマ別に論じますが、本学で西洋近現代美術の通史の講義を受ける

機会がないことを考慮して、最初に簡単に通史を概観する準備段階を設けます。

- 第1回 [イントロダクション] 近代以前の美学
- 第2回 [準備段階] 20世紀美術の通史的概観
- 第3回 モダニズムと平面性
- 第4回 抽象美術の誕生
- 第5回 戦後抽象美術の諸問題
- 第6回 コラージュとは何か
- 第7回 パウル・クレーの「切断(分割)コラージュ」
- 第8回 偶然の戦略
- 第9回 言語としての芸術
- 第10回 イメージと文字
- 第11回 「総合芸術作品」の理念
- 第12回 クルト・シュヴィッタースとメルツバウ
- 第13回 アッサンブルージュと空間の拡張
- 第14回 プリミティヴ:西洋美術の「他者」
- 第15回 複製とアラ

#### ●評価方法

授業中に扱った内容から興味のあるテーマを選び、必ず具体的な作品分析を踏まえたレポートを提出すること。註・参考文献を明記し、インターネットのサイトからの文章のダウンロードは不可。図版・キャプションも付けること。レポート(80%)および出席点(20%)。

#### ●受講生へのコメント

講義は、講師が作成したプリントを基に、パワーポイントで提示する作品の画像に解説を加えながら進めます。講義中に見せた画像をプリントアウトしたものは配布しないので注意すること。

高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』の該当する部分や、高階秀爾『近代絵画史(上・下)』(特に下巻)をあらかじめ読んで、通史の大まかな流れを理解しておくと、テーマ別の講義を一層理解しやすくなります。講義の後、受講者が各自興味を持ったテーマについて、指示された参考文献等を読んで調べることが望ましいです。

なお、集中講義は9月末開講予定です。

#### ●参考文献・教材

参考文献 『世界美術大全集 西洋編』 小学館、1992～1997年。

E. H. ゴンブリッヒ 『美術の物語』 ファイドン、2007年。

高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』 美術出版社、2002年。

高階秀爾『近代絵画史(上・下)』 中公新書、1975年。

天野知香『装飾／芸術—19-20世紀のフランスにおける「芸術」の位相』 ブリュッケ、2001年。

河本真理『切断の時代—20世紀におけるコラージュの美学と歴史』 ブリュッケ、2007年。

河本真理『葛藤する形態—第一次世界大戦と美術』 人文書院、2011年3月刊行予定。

詳しい参考文献は、授業中に適宜指示します。

科目番号 M3713	授業科目名: <b>表現文化学総合研究 I</b>	担当教員名:	単位数
開講期 前金 2	英文名:	三上 雅子 教授 小田中 章浩 教授	2 単位

#### ●科目の主題

表現文化学という新しい領域横断的な学問の成立の過程と、研究の前提となる知識(文化理論等)について総合的な知識を習得させる。また研究にあたって必要とされる方法論についても確認・習熟させる。受講生に研究発表を行わせ、それに基づき討議をすることによって、プレゼンテーション技術をも学習させる。

#### ●到達目標

表現文化学研究にあたって必要とさせる知見・学問的方法論を習得させる。

#### ●授業内容・授業計画

表現文化学を研究するにあたって必要とされる文献を扱い、研究の前提となる文化理論等に関する知識を習得させる。受講生は得た知見に基づいて、研究対象・研究方法等について、討論・報告する。

#### ●評価方法

授業中の発表等によって評価する。

#### ●受講生へのコメント

授業参加に際しては、自己の研究領域のみではなく、表現文化学研究全般における基本的概念等についても習

得・確認することを常に意識すること。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

科目番号 M3714	授業科目名: <b>表現文化学総合研究Ⅱ</b>	担当教員名:	単位数
開講期 後金2	英文名:	三上 雅子 教授 小田中 章浩 教授	2 単位

●科目的主題

表現文化学という新しい領域横断的な学問の成立の過程と、研究の前提となる知識（文化理論等）について総合的な知識を習得させる。また研究にあたって必要とされる方法論についても確認・習熟させる。受講生に研究発表を行わせ、それに基づき討議をすることによって、プレゼンテーション技術をも学習させる。

●到達目標

総合研究Ⅰで習得した知見・スキルの基礎の上に立って、さらに修士論文執筆に向けて総合的知見を獲得させる。

●授業内容・授業計画

受講生の研究分野にかかわる具体的なテーマを取り上げて講じる。受講生は、修士論文で取り組むテーマを絞り込み、研究の方向について報告する。

●評価方法

授業中の発表等によって評価する。

●受講生へのコメント

修士論文のテーマについて、教員と相談しつつ準備を重ね、授業での発表にのぞむこと。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

科目番号 M3715	授業科目名: <b>表現文化学研究指導Ⅰ</b>	担当教員名:	単位数
開講期 前金3	英文名:	三上 雅子 教授 小田中 章浩 教授	2 単位

●科目的主題

表現文化学の修士論文作成の指導を行う。

●到達目標

修士論文作成に必要な知見・方法論等に習熟させる。

●授業内容・授業計画

研究テーマの選択ならびに論文執筆に関して必要な先行研究・関連文献の指示等を行い、さらに論文の構成や論旨の展開についても具体的に助言・指導を行う。

(三上雅子教授) 現代演劇ならびに映画等を対象とし、そこに現れた様々な問題を種々の文化理論・芸術理論に立脚して研究することを指導する。

(小田中章浩教授) フランス演劇あるいは西洋演劇史に関する研究等を対象とし、論文作成、学会発表に必要な指導を行う。

●評価方法

授業での発表等で評価。

●受講生へのコメント

修士論文作成にあたっては、指導教員と相談しつつ綿密な計画を立ててのぞむこと。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

科目番号 M3716	授業科目名: <b>表現文化学研究指導Ⅱ</b>	担当教員名:	単位数
開講期 後金3	英文名:	三上 雅子 教授 小田中 章浩 教授	2 単位

●科目的主題

表現文化学の修士論文作成の指導を行う。

### ●到達目標

研究指導Ⅰで習得した知見・方法論の基礎の上に立って、修士論文を完成させる。

### ●授業内容・授業計画

研究テーマの選択ならびに論文執筆に関して必要な先行研究・関連文献の指示等を行い、さらに論文の構成や論旨の展開についても具体的に助言・指導を行う。

(三上雅子教授) 現代演劇ならびに映画等の非言語的テキストを対象とし、そこに現れた様々な問題を種々の文化理論・芸術理論に立脚して研究することを指導する。

(小田中章浩教授) フランス演劇あるいは西洋演劇史に関する研究を対象とし、論文作成、学会発表に必要な指導を行う。

### ●評価方法

授業中の発表に基づいて評価する。

### ●受講生へのコメント

修士論文作成にあたっては、指導教員と相談のうえ綿密な計画をたててのぞむこと。

### ●参考文献・教材

授業中に指示。